

2013/2/15

柏の景気情報（平成25年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年1月分）

○ 調査期間 : 平成25年1月22日 ~ 1月25日

○ 調査対象 : 柏市内161事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	161	98	60.9%
建設	45	29	64.4%
製造	35	18	51.4%
卸・小売	44	33	75.0%
サービス	37	18	48.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年1月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは横ばい 円安の影響が出始める ▶

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.4(前月水準▲23.7)となり、マイナス幅が1.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.3(同▲54.5)、建設業▲10.3(同▲14.2)、サービス業▲5.5(同▲5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.7(同±0.0)であり、マイナス幅が▲27.7ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】からは、「補正予算に期待が持てるがどのようにいつ配分されるか不安である」(土木工事業)、「景気上昇とのマスコミ報道だが現実とはとても厳しい。電気料金の値上げで材料費も増加。利益は望めない」(電気工事業)、「ほとんどの材料が値上がりしてしまった。一方施工単価は相変わらずで値引き端数処理等で最終的には下落している。ただ消費税の影響が物件数は増えて人手不足である、雨雪インフルエンザなどの影響による各業者の遅れが仕上げ業者である当社にシワ寄せがきている。また年度末に近いという事もありかなり忙しい。作業の遅れを取り戻すための休日出勤や残業といった方法が近隣の関係で解決できないので余計に工期が厳しくなっているようだ」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円安の影響がすぐに現れ、仕入れ時期により海外製品の価格が上昇した。薄利なところで更に厳しさが増している」(その他の機械・同部品製造業)、「12月の総選挙の影響から外飲み需要が減少し、その影響から1月上売は若干低調に終わった。(但し、一過性のものと推測され翌月以降は前年並み程度か)」(酒類製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「市場の変化はあるものの、現状購買意欲にはまだ繋がっていない様、今後の変化が2月3月で出てくればやや上向きになるのでは?」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「景気の上向き感」をどこまで保てるか。物価2%上昇と、燃料費高騰等の円安の影響が不安」(その他の各種商品小売業)、「年が明けても好材料は見つからず厳しい現状が続くそうです」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宴会等の予約は昨年同等にあるがフリーのお客様が減少している。従業員の入れ替え時期で募集をしているが年配の応募はあるが若い方(学生など)からがみつからない」(酒場・ビヤホール)、「2%のインフレ目標、日銀の無制限緩和が我々中小企業にどれだけ恩恵があるのかまだわからないです」(不動産賃貸業)、「昨今の利下のおかげで資金繰りに余裕ができたようです。また柏地域は他地方と比較して賃料相場下落はさほど感じられません。有る程度の条件がクリアで好条件であれば経営はスムーズだとおもいます」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎円安の影響

各業種から、「円安になっていると言っても国内材料の畳表の値段は上昇。貸家アパート用の畳表は中国産ですが円安がすぐに仕入単価に反映されるわけではないのが残念です」(内装工事業)、「為替が円安の状況から原材料価格が高騰。製品受注に大きな変動はないが、工事案件は長短関係なく、一時期に比べ大幅に減少している」(特殊産業用機械)、「材料価格下げ止まり、円安傾向で輸入材料費が上がる心配有り。チャイナリスクの回避が必須となりつつ有る状況ですが、簡単に解決できない」(紙製容器製造業)、「野菜の価格が落ち着くのではないかと期待を込めてのコメントです。極度の円安は後々輸入品にのしかかってくる怖さがあるのが不安です」(菓子・パン小売業)、「週単位で仕入単価が上昇するので値上げが追い付かず粗利は非常に悪い。円安影響もろに跳ね返っているようだ。灯油に関しては仕入のタイミングに一喜一憂する日々」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

◎政権交代

各業種から、「やはり自民党政権になってからの社会的印象は明るい兆しが見えるようになっている。短期1年、2年で見た場合、我々の業界としては明るいと思います。でも、消費税アップ後の状況は厳しくなるとの予想から、先行きの不安感はぬぐえない感は否定できない。思い切った政策を希望する事は全ての企業からの声と思いますが、何より生活感の不安を取り除く政策を期待しています」(建築工事業)、「政権交代で見た目的には好景気到来のように思われるかもしれないが、現況では中小企業からは期待感が出てきていない」(印刷業)、「相変わらず柏市外からのお客様は来社が減っています。土地、建売、中古住宅ともに価格が値下がり傾向です。政権が交代して株価が上がってきているのでこれから景気が良くなる事を期待しています」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「初売当日は、開店時間を早め、売り上げは若干前年を上回った。降雪の14日には閉店時間を早めるなどの対策をとり、売上や入店客数に影響を受けた」(百貨店)、「1月度、毎年盛況である2日の初売りは、福袋の販売店舗と販売個数を増やしたことから、入店客数・売上高ともに前年を大きく上回った。以降6日までの年始商戦も前年より休日が多かったことに加え、厳しい寒さが続いたことから好調な推移となった」(その他の各種商品小売業)、「前月に引き続き厳しい冷え込みや積雪の影響から野菜果実ともに入荷が減少し特に葉物野菜や根菜類等では大幅な入荷減から高値取引となっています。全体の取り扱いも減少しています。今後も生育の遅れが予想され堅調な取引が続くと思われます」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲38.0	▲24.1	▲26.3	▲60.0	▲29.4
9月	▲36.9	▲28.0	▲23.5	▲58.8	▲18.7
10月	▲32.6	▲18.5	▲18.1	▲51.4	▲35.0
11月	▲39.6	▲20.6	▲27.7	▲55.8	▲50.0
12月	▲23.7	▲14.2	±0.0	▲54.5	▲5.8
1月	▲22.4	▲10.3	▲27.7	▲39.3	▲5.5
見通し	▲5.1	△6.8	▲5.5	▲21.2	△5.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.4(前月水準▲23.7)となり、マイナス幅が1.3ポイント縮小した。

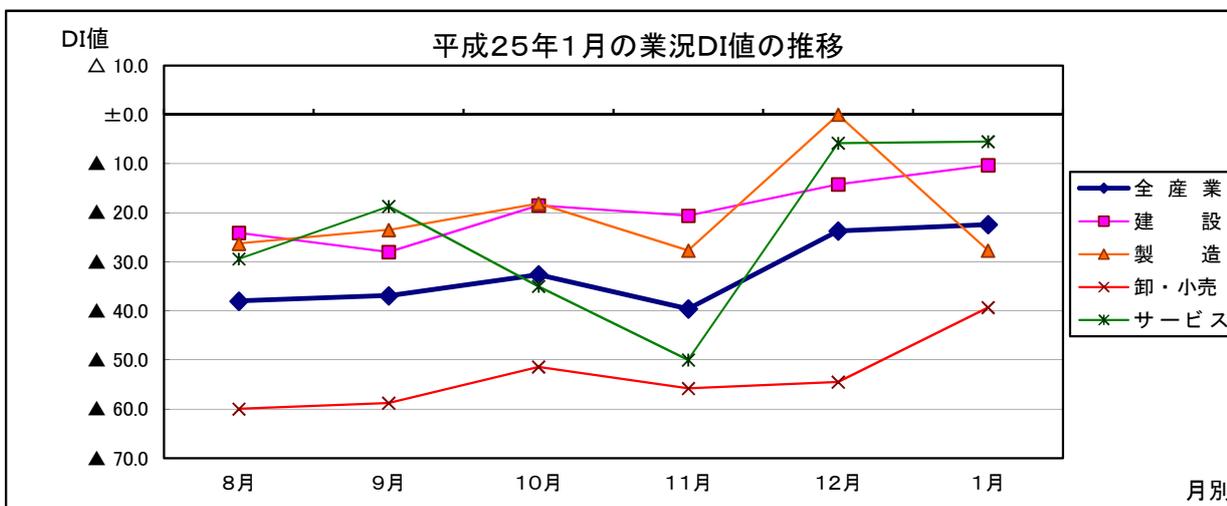
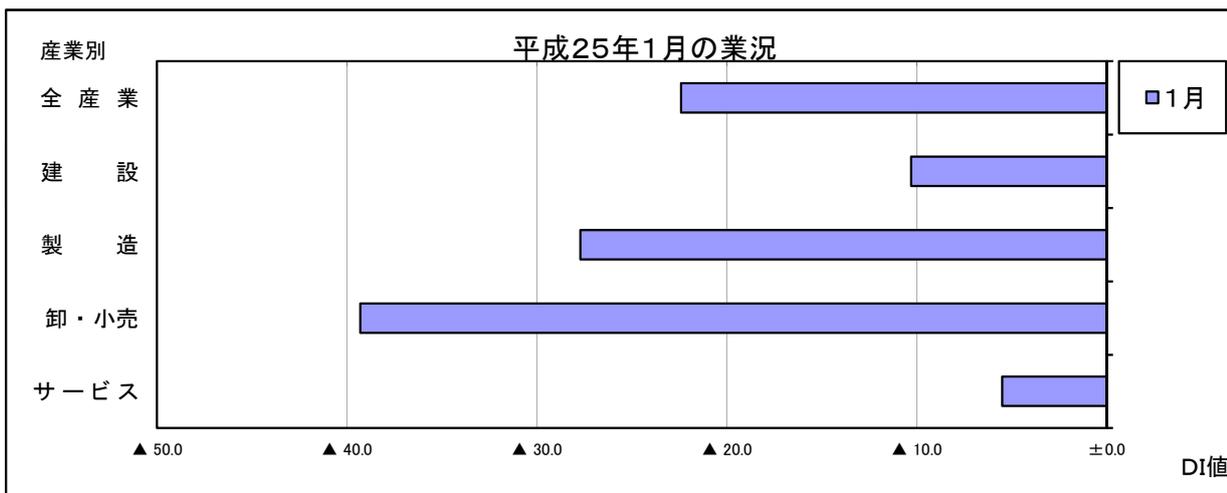
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.3(同▲54.5)、建設業▲10.3(同▲14.2)、サービス業▲5.5(同▲5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.7(同±0.0)であり、マイナス幅が▲27.7ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.1(前月水準▲20.6)となり、マイナス幅が15.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業6.8(同▲14.2)、サービス業5.5(同▲5.8)であり、特に、建設業は21.0ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.2(同▲36.3)、製造業▲5.5(同▲15.7)である。

平成25年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 8月	9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲38.0	▲36.9	▲32.6	▲39.6	▲23.7	▲22.4	▲5.1(▲20.6)
建設	▲24.1	▲28.0	▲18.5	▲20.6	▲14.2	▲10.3	△6.8(▲14.2)
製造	▲26.3	▲23.5	▲18.1	▲27.7	±0.0	▲27.7	▲5.5(▲15.7)
卸・小売	▲60.0	▲58.8	▲51.4	▲55.8	▲54.5	▲39.3	▲21.2(▲36.3)
サービス	▲29.4	▲18.7	▲35.0	▲50.0	▲5.8	▲5.5	△5.5(▲5.8)



【平成25年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25. 5(前月水準▲21. 6)となり、マイナス幅が▲3. 9ポイント拡大した。

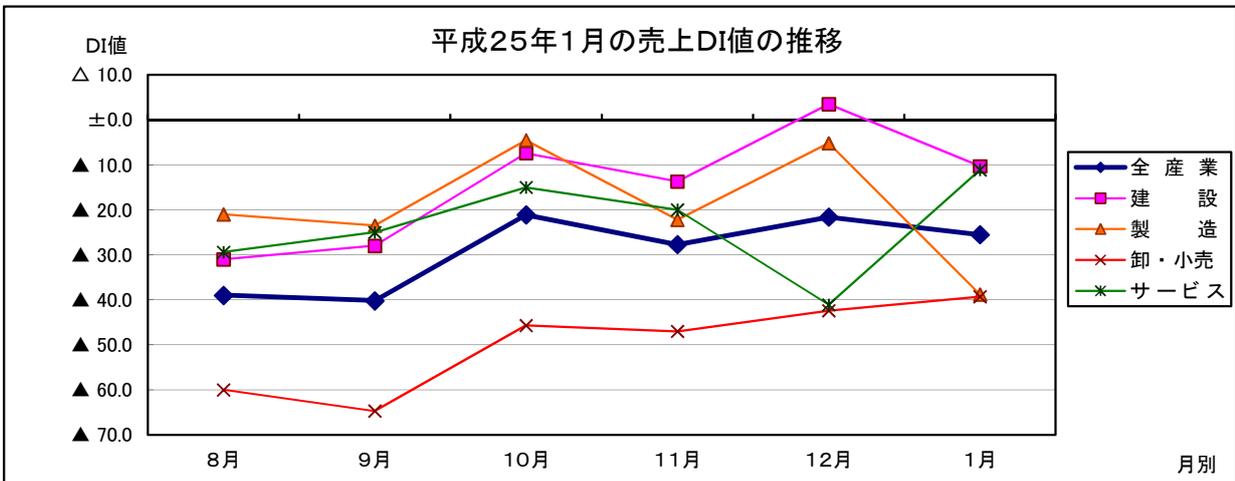
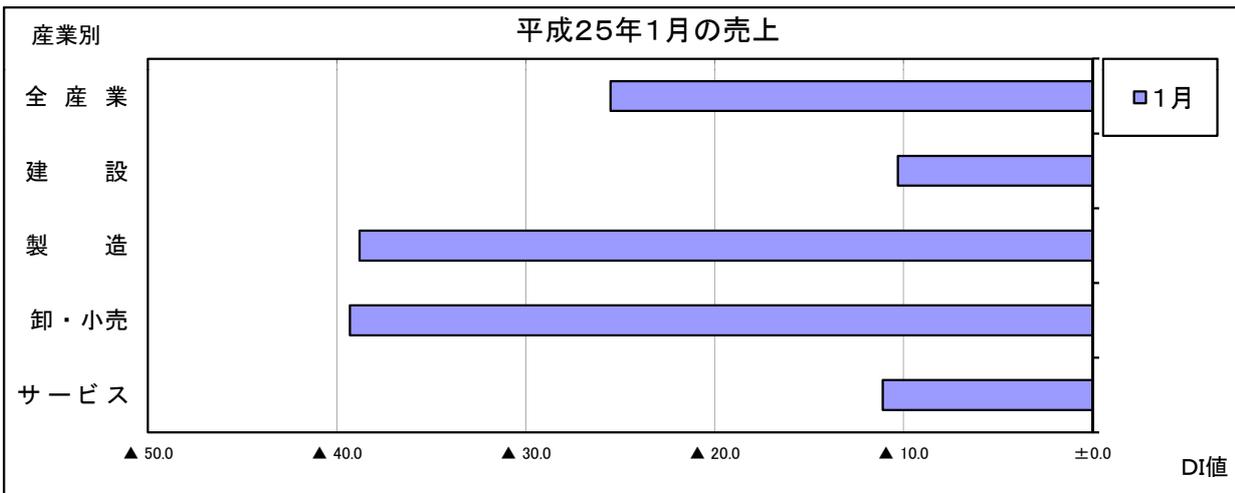
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲11. 1(同▲41. 1)、卸小売業▲39. 3(同▲42. 4)である。特に、サービス業はマイナス幅が30. 0ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲10. 3(同3. 5)である。マイナス幅が拡大した業種は製造業▲38. 8(同▲5. 2)であり、マイナス幅が▲33. 6ポイントと

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、3. 0(前月水準▲18. 5)となり、プラス幅へ21. 5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業16. 6(同▲26. 3)、建設業6. 8(同▲7. 1)、サービス業5. 5(同▲5. 8)である。特に、製造業は42. 9ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲9. 0(同▲30. 3)であり、マイナス幅が21. 3ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成25年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 8月	9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲ 39.0	▲ 40.2	▲ 21.1	▲ 27.7	▲ 21.6	▲ 25.5	△ 3.0 (▲ 18.5)
建設	▲ 31.0	▲ 28.0	▲ 7.4	▲ 13.7	△ 3.5	▲ 10.3	△ 6.8 (▲ 7.1)
製造	▲ 21.0	▲ 23.5	▲ 4.5	▲ 22.2	▲ 5.2	▲ 38.8	△ 16.6 (▲ 26.3)
卸・小売	▲ 60.0	▲ 64.7	▲ 45.7	▲ 47.0	▲ 42.4	▲ 39.3	▲ 9.0 (▲ 30.3)
サービス	▲ 29.4	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 41.1	▲ 11.1	△ 5.5 (▲ 5.8)



【平成25年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.7(前月水準▲26.8)となり、マイナス幅が▲9.9ポイント拡大した。

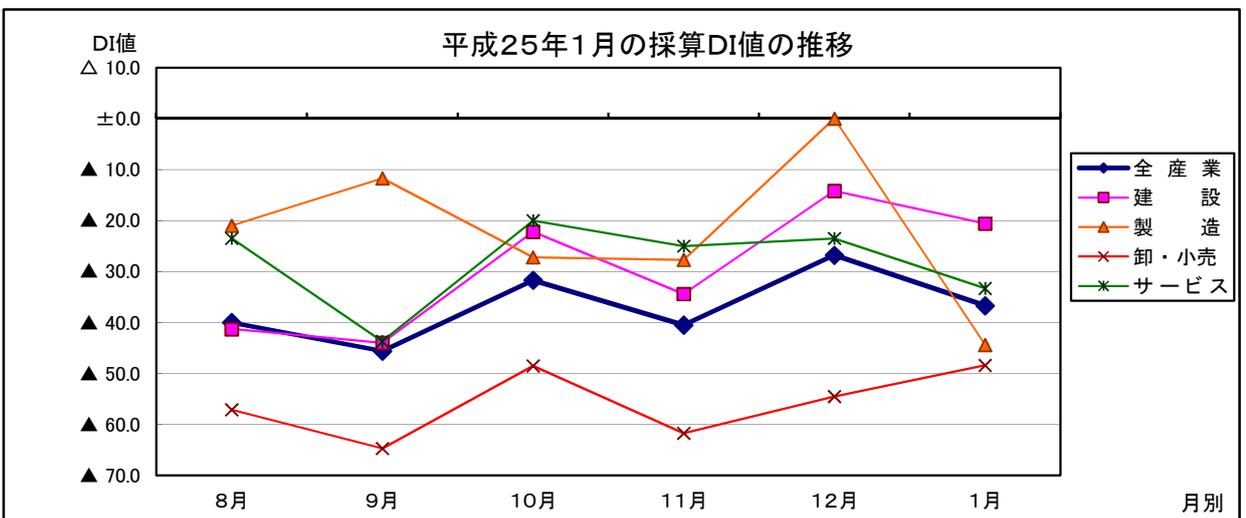
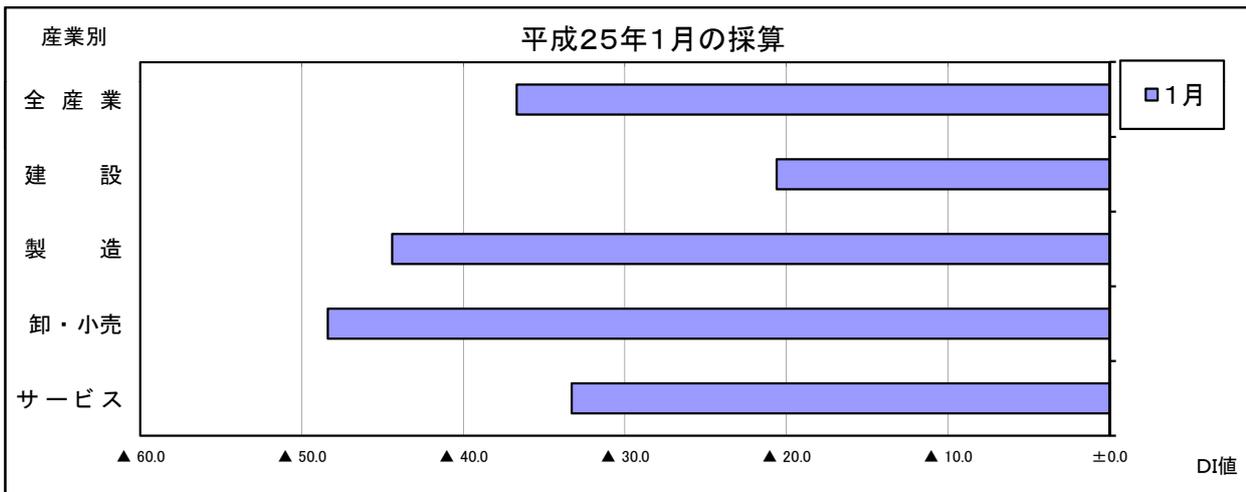
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲48.4(同▲54.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲44.4(同±0.0)、サービス業▲33.3(同▲23.5)、建設業▲20.6(同▲14.2)である。特に、製造業はマイナス幅が▲44.4ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.1(前月水準▲19.5)となり、マイナス幅が13.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業5.5(同▲10.5)、サービス業5.5(同▲5.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲15.1(同▲33.3)、建設業▲10.3(同▲17.8)である。

平成25年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 8月	9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲40.0	▲45.6	▲31.7	▲40.5	▲26.8	▲36.7	▲6.1(▲19.5)
建設	▲41.3	▲44.0	▲22.2	▲34.4	▲14.2	▲20.6	▲10.3(▲17.8)
製造	▲21.0	▲11.7	▲27.2	▲27.7	±0.0	▲44.4	△5.5(▲10.5)
卸・小売	▲57.1	▲64.7	▲48.5	▲61.7	▲54.5	▲48.4	▲15.1(▲33.3)
サービス	▲23.5	▲43.7	▲20.0	▲25.0	▲23.5	▲33.3	△5.5(▲5.8)



【平成25年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.6(前月水準▲15.4)となり、マイナス幅が▲16.2ポイント拡大した。

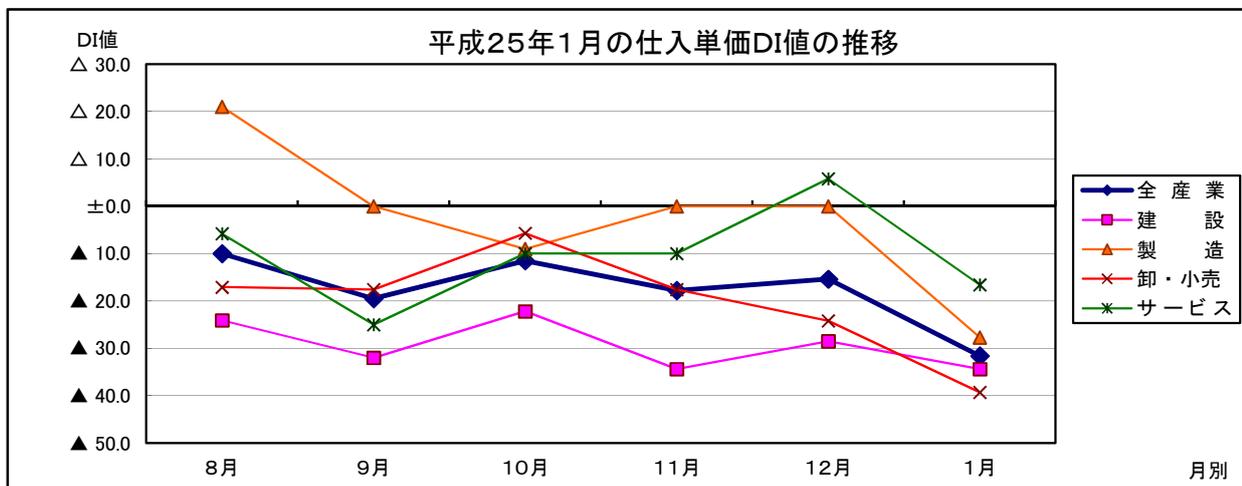
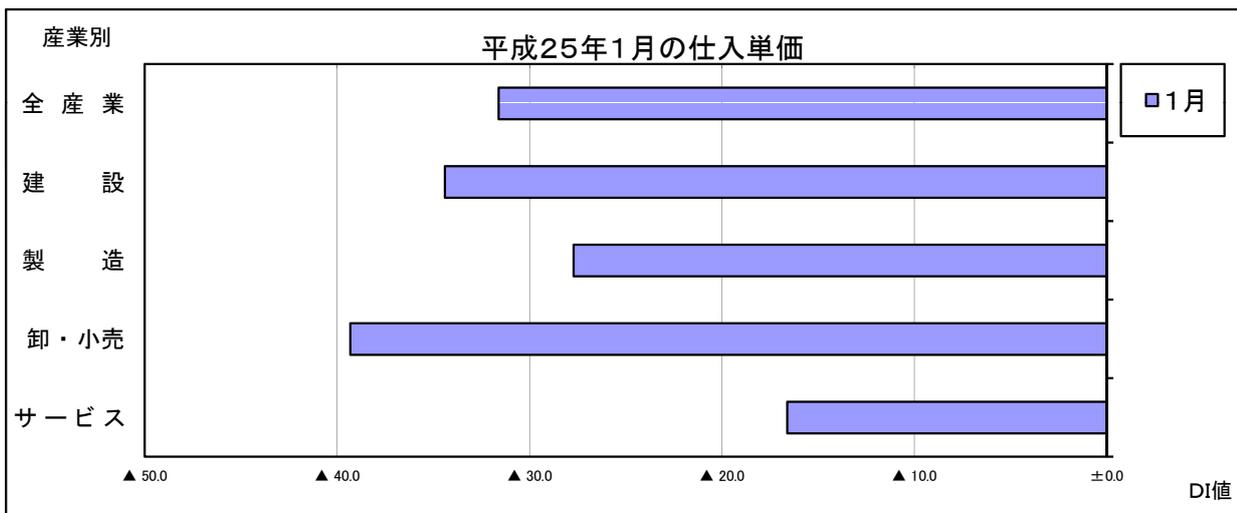
業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲16.6(同5.8)であり、マイナス幅が▲22.4ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同±0.0)、卸小売業▲39.3(同▲24.2)、建設業▲34.4(同▲28.5)である。特に、製造業はマイナス幅が▲27.7ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.5(前月水準▲11.3)となり、マイナス幅が▲14.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲27.5(同▲32.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲3.0)、サービス業▲22.2(同±0.0)、製造業▲11.1(同▲5.2)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲30.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成25年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 8月	9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲10.0	▲19.5	▲11.5	▲17.8	▲15.4	▲31.6	▲25.5(▲11.3)
建設	▲24.1	▲32.0	▲22.2	▲34.4	▲28.5	▲34.4	▲27.5(▲32.1)
製造	△21.0	±0.0	▲9.0	±0.0	±0.0	▲27.7	▲11.1(▲5.2)
卸・小売	▲17.1	▲17.6	▲5.7	▲17.6	▲24.2	▲39.3	▲33.3(▲3.0)
サービス	▲5.8	▲25.0	▲10.0	▲10.0	△5.8	▲16.6	▲22.2(±0.0)



【平成25年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、±0.0(前月水準1.0)となり、プラス幅が▲1.0ポイント縮小した。

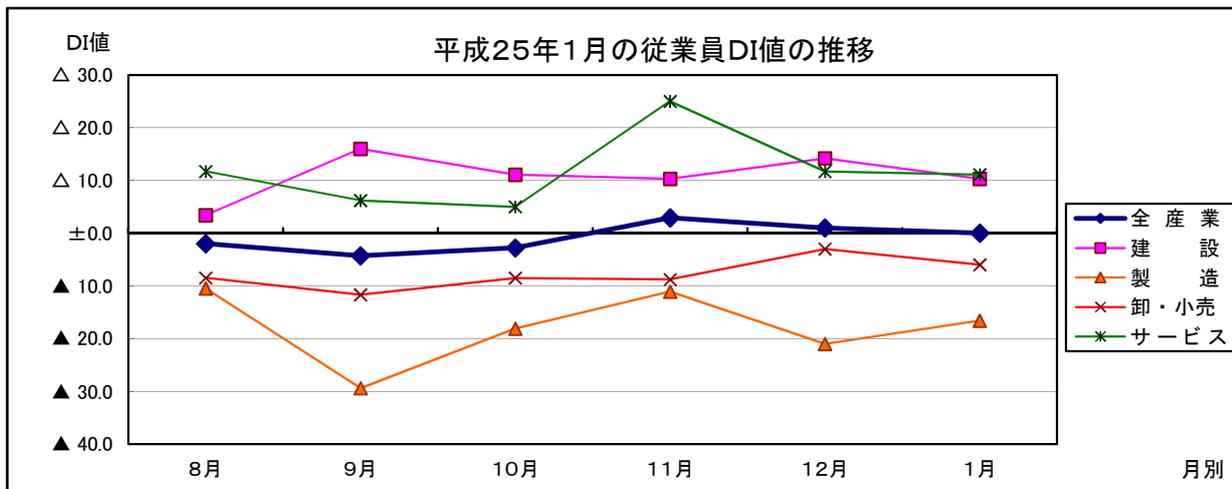
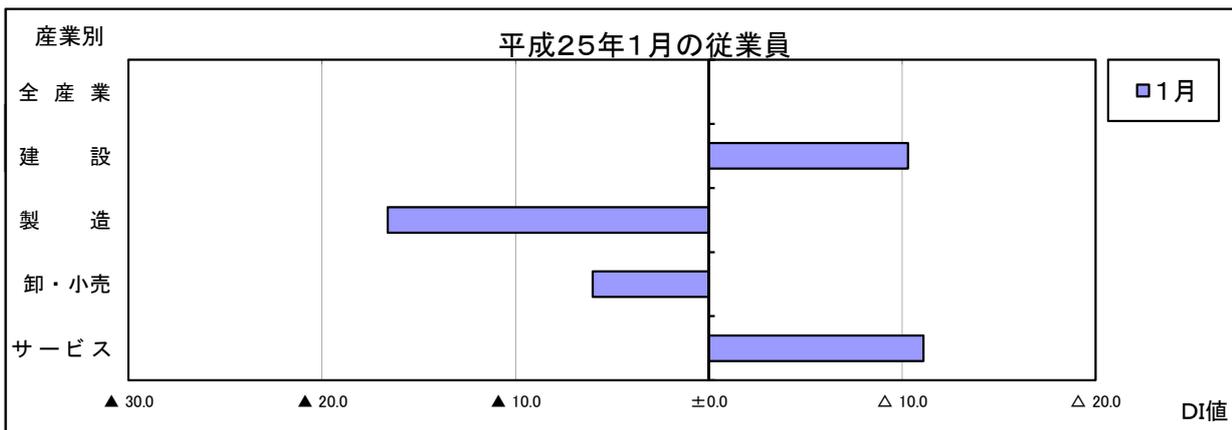
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲16.6(同▲21.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業10.3(同14.2)、サービス業11.1(同11.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲6.0(同▲3.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、8.1(前月水準4.1)となり、プラス幅が4.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業27.7(同11.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲21.0)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲3.0(同▲3.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業17.2(同25.0)である。

平成25年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 8月	9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲2.0	▲4.3	▲2.8	△2.9	△1.0	±0.0	△8.1(△4.1)
建設	△3.4	△16.0	△11.1	△10.3	△14.2	△10.3	△17.2(△25.0)
製造	▲10.5	▲29.4	▲18.1	▲11.1	▲21.0	▲16.6	▲5.5(▲21.0)
卸・小売	▲8.5	▲11.7	▲8.5	▲8.8	▲3.0	▲6.0	▲3.0(▲3.0)
サービス	△11.7	△6.2	△5.0	△25.0	△11.7	△11.1	△27.7(△11.7)



【平成25年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12. 2(前月水準▲10. 3)となり、マイナス幅が▲1. 9ポイント拡大した。

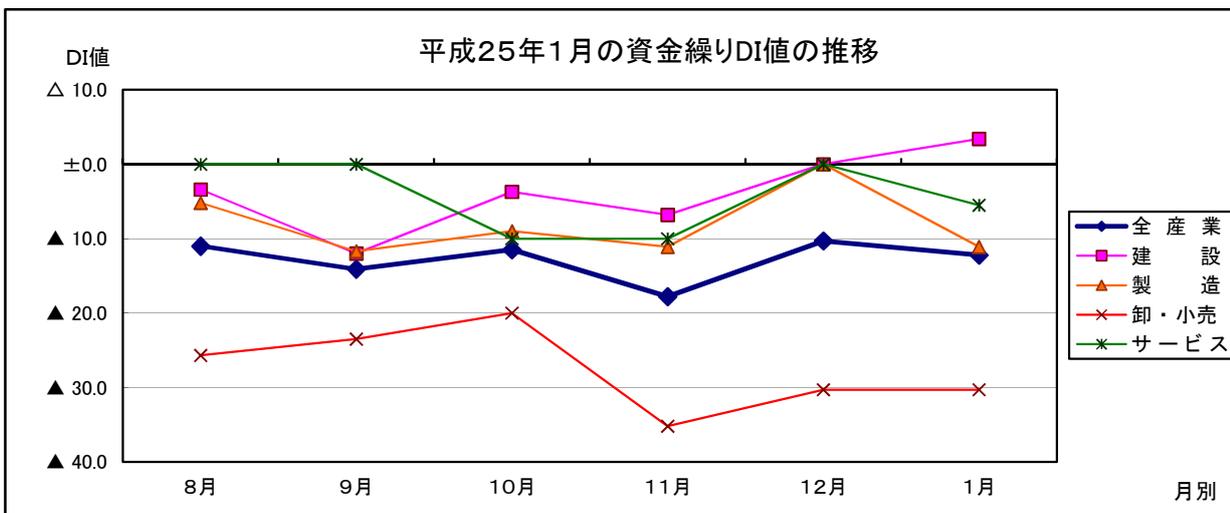
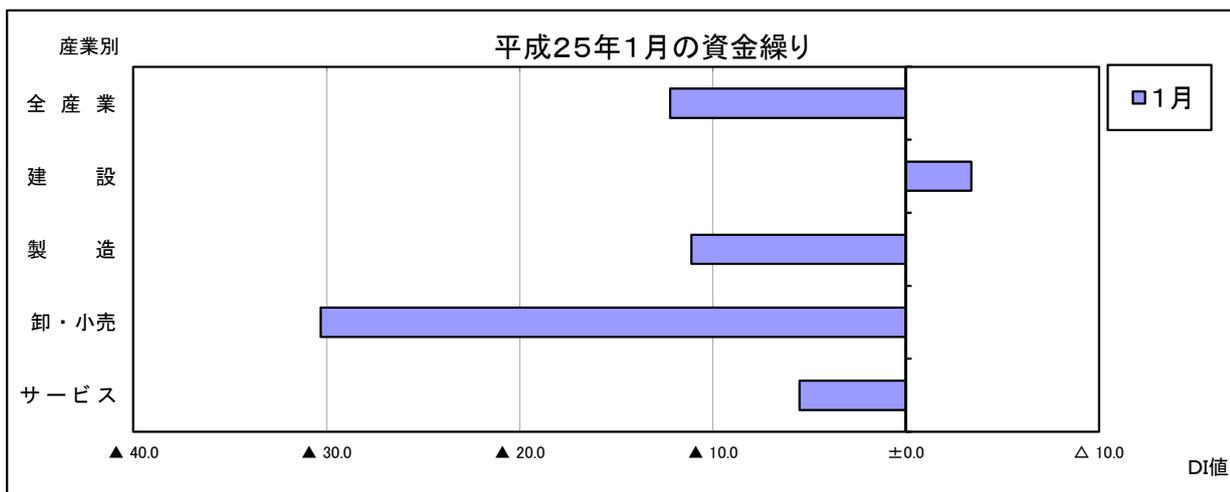
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業3. 4(同±0. 0)である。変わらない業種は、卸小売業▲30. 3(同▲30. 3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11. 1(同±0. 0)、サービス業▲5. 5(同±0. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7. 1(前月水準▲16. 4)となり、マイナス幅が9. 3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業5. 5(同▲5. 8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲15. 1(同▲33. 3)、建設業±0. 0(同▲7. 1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲16. 6(同▲10. 5)である。

平成25年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 8月	9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲11.0	▲14.1	▲11.5	▲17.8	▲10.3	▲12.2	▲7.1(▲16.4)
建設	▲3.4	▲12.0	▲3.7	▲6.8	±0.0	△3.4	±0.0(▲7.1)
製造	▲5.2	▲11.7	▲9.0	▲11.1	±0.0	▲11.1	▲16.6(▲10.5)
卸・小売	▲25.7	▲23.5	▲20.0	▲35.2	▲30.3	▲30.3	▲15.1(▲33.3)
サービス	±0.0	±0.0	▲10.0	▲10.0	±0.0	▲5.5	△5.5(▲5.8)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 25.5	△ 3.0	▲ 36.7	▲ 6.1	▲ 31.6	▲ 25.5	±0.0	△ 8.1
建設	▲ 10.3	△ 6.8	▲ 20.6	▲ 10.3	▲ 34.4	▲ 27.5	△ 10.3	△ 17.2
製造	▲ 38.8	△ 16.6	▲ 44.4	△ 5.5	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 16.6	▲ 5.5
卸・小売	▲ 39.3	▲ 9.0	▲ 48.4	▲ 15.1	▲ 39.3	▲ 33.3	▲ 6.0	▲ 3.0
サービス	▲ 11.1	△ 5.5	▲ 33.3	△ 5.5	▲ 16.6	▲ 22.2	△ 11.1	△ 27.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.4	▲ 5.1	▲ 12.2	▲ 7.1
建設	▲ 10.3	△ 6.8	△ 3.4	±0.0
製造	▲ 27.7	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 16.6
卸・小売	▲ 39.3	▲ 21.2	▲ 30.3	▲ 15.1
サービス	▲ 5.5	△ 5.5	▲ 5.5	△ 5.5

【平成25年1月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	H24年度の補正予算にて省エネ改修工事に期待	補正予算 省エネ工事	一般土木建築工事業
	補正予算に期待が持てるがどのようにいつ配分されるか不安である	補正予算	土木工事業
	景気上昇とのマスコミ報道だが現実はとても厳しい。電気料金の値上げで材料費も増加。利益は望めない	厳しい業況 電気料金値上げ 材料費増加	電気工事業
	少しでも工事(売上)高が増加しそれに伴い利益が出ています	利益増加	一般土木建築工事業
	やはり自民政権になってからの社会的印象は明るい兆しが見えるようになっている。短期1年、2年で見た場合、我々の業界としては明るく思います。でも、消費税アップ後の状況は厳しくなるとの予想から、先行きの不安感はぬぐえない感も否定できない。思い切った政策を希望する事は全ての企業からの声と思いますが、何より生活感の不安を取り除く政策を期待しています。現時点での業界環境は、駆け込みや、税制などの点から好調に推移すると思いますが、それに伴う人手不足や、資材高騰への対処がこれから大変になってくると思います。今年から、来年中盤までは、不動産の土地取引、建築着工は成長安定すると思いますが、それ以降の業績を維持する為の、営業戦略を模索中です。今良かったと思っている事、ホットスポットのイメージが薄らいできた事。株が上がってきて良	政権交代 消費税増税 先行き不安 人手不足 材料高騰 建築工事安定 ホットスポット 株価上昇	建築工事業
	年度末にかけては順調に受注が続いている。	受注継続	塗装工事業
	ほとんどの材料が値上がりしてしまった。一方施工単価は相変わらずで値引き端数処理等で最終的には下落している。ただ消費税の影響が物件数は増えて人手不足である、雨雪インフルエンザなどの影響による各業者の遅れが仕上げ業者である当社にしわ寄せがきている。また年度末に近いという事もかなり忙しい。作業の遅れを取り戻すための休日出勤や残業といった方法が近隣の関係で解決できないので余計に工期が厳しくなっているようだ	材料高騰 施工単価下落 消費税 人手不足 工事遅れ	その他の職別工事業
	円安になっていると言っても国内材料の豊表の値段は上昇。貸家アパート用の豊表は中国産ですが円安がすぐに仕入単価に反映されるわけではないのが残念です	円安の影響 材料高騰	内装工事業
	円安になり海外物件の受注に期待している	円安の影響 海外受注	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	為替が円安の状況から原材料価格が高騰。製品受注に大きな変動はないが、工事案件は長短関係なく、一時期に比べ大幅に減少している。	円安の影響 材料高騰 工事減少	特殊産業用機械
製造業	円安の影響がすぐに現れ、仕入れ時期により海外製品の価格が上昇した。薄利なところで更に厳しさが増している	円安の影響 海外製品価格上昇	その他の機械・同部品製造業
	12月の総選挙の影響から外飲み需要が減少し、その影響から1月上売は若干低調に終わった。(但し、一過性のもので推測され翌月以降は前年)	外食需要減少 売上低調	酒類製造業
	政権交代で見た目的には好景気到来のように思われるかもしれないが、現況では中小企業からは期待感が出てきていない。銀行には資金がだぶついている様で回収可能な借り手を探しているしかし、単純に期待感だけで設備投資はできない。需要の動きを見定めないと供給とのバランスで在庫を抱えてつぶれてしまうのではないか。	政権交代 期待薄 資金だぶつき 需要の動向	印刷業
	原料輸入品があり、円安傾向がもろに採算を圧迫してきている	円安の影響 材料高騰 採算圧迫	紙製容器製造業
	取引先による生産調整がつづいている	生産調整	一般産業用機械・装置製造業
	昨年に比べ全体的に仕事量が多い状態が続いている。従業員を増やしていく時期になってきたが、鉄工関係での良い人材確保は厳しいです	仕事量増加 人材確保	建築用・建設用金属製品製造業
	金融円滑化法案終了後の各金融機関の対応が気になっております。	金融円滑化法終了	電子応用装置製造業

【平成25年1月の業種別業界内トピックス】

	材料価格下げ止まり、円安傾向で輸入材料費が上がる心配有り。チャイナリスクの回避が必須となりつつ有る状況ですが、簡単に解決できない	材料価格下げ止まり 円安の影響 材料高騰 チャイナリスク	紙製容器製造業
	冬物処分セールは高額品のマークダウンにおいて好調だが、全体でみれば横ばい、当地域にファストファッション小売店が出店のため今後低価格商品についてはまったく先が読めない。衣料品(特に春物)は気温に大きく左右されるため全く読めない	冬物セール 売上横ばい 競合店出店 低価格商品 春物商戦	婦人・子供服小売業
	市場の変化はあるものの、現状購買意欲にはまだ繋がっていない様、今後の変化が2月3月で出てくればやや上向きになるのでは？	購買意欲低迷	時計・眼鏡・光学機械小売業
	お客様の買い上げ額が減少してきている。客数は横ばいのまま	売上減少 客数横ばい	その他の各種商品小売業
	初商当日は、開店時間を早め、売り上げは若干前年を上回った。降雪の14日には閉店時間を早めるなどの対策をとり、売上や入店客数に影響を受けた。今後、開店40周年を盛り上げるにあたり、さらに柏地域に特化したイベントや催しなども企画していきたい。	初売り 売上増加 天候の影響 地域特化イベント	百貨店
	1月度、毎年盛況である2日の初売りは、福袋の販売店舗と販売個数を増やしたことから、入店客数・売上高ともに前年を大きく上回った。以降6日までの年始商戦も前年より休日が多かったことに加え、厳しい寒さが続いたことから好調な推移となった。10日(木)から開催のSuper6Daysは、14日(月・祝)が大雪に見舞われた影響から、入店客数は期間中昨対95.3%、売上高も97.8%という結果であった。セール終了後からはSuper Clearanceを開催、OFF率を上げたことや寒気が長引いたことから、セール商材の消化にも繋がった。またプロパー商材も徐々に動きだしていることから、月末に掛けてはプロパー商材に切り換え梅春物の早期実売に結び付けていく	初売り 福袋 売上増加 冬物セール 天候の影響 春物商戦	その他の各種商品小売業
卸小売業	景気の上向き「感」をどこまで保てるか。物価2%上昇と、燃料費高騰等の円安の影響が不安	景気の動向 物価2%目標 燃料費高騰 円安の影響	その他の各種商品小売業
	年が明けても好材料は見つからず厳しい現状が続きそうです	好材料なし 厳しい業況	菓子・パン小売業
	野菜の価格が落ち着くのではないかと期待を込めてのコメントです。極度の円安は後々輸入品にのしかかってくる怖さがあるのが不安です。	円安の影響 先行き不安	菓子・パン小売業
	前月から若干ではあるが客単価の上昇があり、売上採算ともに微増	客単価上昇 売上微増	その他の各種商品小売業
	前月に引き続き厳しい冷え込みや積雪の影響から野菜果実ともに入荷が減少し特に葉物野菜や根菜類等では大幅な入荷減から高値取引となっています。全体の取り扱いも減少しています。今後も生育の遅れが予想され堅調な取引が続くと思われます。昨今の政界ではデフレ脱却を目指すため、経済成長として大規模な緊急経済対策をしています。GDPの2%を押し上げられるよう経済効果を期待するところです。	天候の影響 青果物入荷減少 高値取引 経済対策	食料・飲料卸売業
	週単位で仕入単価が上昇するので値上げが追い付かず粗利は非常に悪い。円安影響がもろに跳ね返っているようだ。灯油に関しては仕入のタイミングに一喜一憂する日々	仕入単価上昇 粗利悪化 円安の影響	燃料小売業
	最近の景況は停滞したまま	景況停滞	塗料卸売業
	宴会等の予約は昨年同等にあるがフリーのお客様が減少している。従業員の入れ替え時期で募集をしているが年配の応募はあるが若い方(学生など)からみつからない	客数減少 従業員不足	酒場・ビヤホール
	宴会は新年会の受注も、件数、売り上げ共に12月同様好調に推移し昨年を上回る。宿泊は競合他社の参入による影響とプラザホテルのINET(WEB)販売の参画により経路別予約比率がINET予約に大きく偏り地域エリアの価格を大きく下げる事となる。それにより、集客手数料、原価(リネン費、清掃費含)が上がり事業所全体の利益を圧迫する。	宴会好調 競合他社 インターネット予約 利益圧迫	ホテル

【平成25年1月の業種別業界内トピックス】

サービス業	昨年度から会員カードの発行でリピーター客足は増加。この為に売上利益とも減少。新製品を積極的に展開して今年に入り客足客単価ともに増加。全体的に購入意欲は低調です	会員カード リピーター増加 売上利益減少 新製品入荷 購買意欲低調	その他の飲食料品小売業
	相変わらず柏市外からのお客様は来社が減っています。土地、建売、中古住宅ともに価格が値下がり傾向です。政権が交代して株価が上がってきているのでこれから景気が良くなる事を期待しています	市外来客減少 不動産価格下落 政権交代 株価上昇 先行き期待	不動産管理業
	2%のインフレ目標、日銀の無制限緩和が我々中小企業にどれだけ恩恵があるのかまだわかりません	金融緩和	不動産賃貸業
	昨今の利下のおかげで資金繰りに余裕がでてきたようです。また柏地域は他地方と比較して賃料相場の下落はさほど感じられません。有る程度の条件がクリアで好条件であれば経営はスムーズだとも思います	賃料相場横ばい	不動産賃貸・管理業
	年度末に向けた忙しさは例年どおりになった。ただ、年度明けからの予定は不変である。デフレは人件費にも響き商品単価の低下と比較し固定費(人件費)に追いつかず、相変わらず厳しさは隠せない。安倍政権の3つの矢を期待するばかり。ただ、的を外した場合のことを思うと・・・、消費負担は増えるばかり。	仕事量不変 デフレ 厳しい業況 政権交代	ソフトウェア業
			0

◎円安の影響

- ・ 円安になっていると言っても国内材料の畳表の値段は上昇。貸家アパート用の畳表は中国産ですが円安がすぐに仕入単価に反映されるわけではないのが残念です 内装工事業
- ・ 為替が円安の状況から原材料価格が高騰。製品受注に大きな変動はないが、工事案件は長短関係なく、一時期に比べ大幅に減少している 特殊産業用機械
- ・ 原料輸入品があり、円安傾向がもろに採算を圧迫してきている 紙製容器製造業
- ・ 材料価格下げ止まり、円安傾向で輸入材料費が上がる心配有り。チャイナリスキの回避が必須となりつつ有る状況ですが、簡単に解決できない 紙製容器製造業
- ・ 野菜の価格が落ち着くのではないかと期待を込めてのコメントです。極度の円安は後々輸入品にのしかかってくる怖さがあるのが不安です 菓子・パン小売業
- ・ 週単位で仕入単価が上昇するので値上げが追い付かず粗利は非常に悪い。円安影響がもろに跳ね返っているようだ。灯油に関しては仕入のタイミングに一喜一憂する日々 燃料小売業

◎政権交代

- ・ やはり自民党政権になってからの社会的印象は明るい兆しが見えるようになっている。短期1年、2年で見た場合、我々の業界としては明るいと思います。でも、消費税アップ後の状況は厳しくなるとの予想から、先行きの不安感はぬぐえない感は否定できない。思い切った政策を希望する事は全ての企業からの声と思いますが、何より生活感の不安を取り除く政策を期待しています 建築工事業
- ・ 政権交代で見た目的には好景気到来のように思われるかもしれないが、現況では中小企業からは期待感が出てきていない 印刷業
- ・ 相変わらず柏市外からのお客様は来社が減っています。土地、建売、中古住宅ともに価格が値下がり傾向です。政権が交代して株価が上がってきているのでこれから景気が良くなる事を期待しています 不動産管理業
- ・ 年度末に向けた忙しさは例年どおりになった。ただ、年度明けからの予定は不変である。デフレは人件費にも響き商品単価の低下と比較し固定費(人件費)に追いつかず、相変わらず厳しさは隠せない。安倍政権の3つの矢を期待するばかり。ただ、的を外した場合のことを思うと・・・、消費負担は増えるばかり ソフトウェア業

◎天候の影響

- ・ 初売当日は、開店時間を早め、売り上げは若干前年を上回った。降雪の14日には閉店時間を早めるなどの対策をとり、売上や入店客数に影響を受けた 百貨店
- ・ 1月度、毎年盛況である2日の初売りは、福袋の販売店舗と販売個数を増やしたことから、入店客数・売上高ともに前年を大きく上回った。以降6日までの年始商戦も前年より休日が多かったことに加え、厳しい寒さが続いたことから好調な推移となった その他の各種商品小売業
- ・ 前月に引き続き厳しい冷え込みや積雪の影響から野菜果実ともに入荷が減少し特に葉物野菜や根菜類等では大幅な入荷減から高値取引となっている。全体の取り扱いも減少しています。今後も生育の遅れが予想され堅調な取引が続くと思われます。 食料・飲料卸売業

平成25年1月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.4に対し、「CCI-LOBO」が▲29.6で柏の方がマイナス幅が7.2ポイント小さい。全ての業種で「柏の景気」の方が良く、サービス業は10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.5に対し、「CCI-LOBO」が▲26.0で、柏の方がマイナス幅が0.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・建設業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.7に対し、「CCI-LOBO」が▲27.6で、柏のほうがマイナス幅が9.1ポイント大きい。全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、特に卸小売業・卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.6に対し、「CCI-LOBO」が▲21.4で、柏の方がマイナス幅が10.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・製造業・建設業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が±0.0に対し、「CCI-LOBO」が▲0.6で、柏の方がマイナス幅が0.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.6で、柏の方がマイナス幅が5.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業・製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。

平成25年1月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 22.4	 10.3	 27.7	 39.3	 5.5
CCI LOBO	 29.6	 15.7	 33.3	 39.8	 24.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.5	 10.3	 38.8	 39.3	 11.1
CCI LOBO	 26.0	 10.9	 27.1	 37.4	 21.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.7	 20.6	 44.4	 48.4	 33.3
CCI LOBO	 27.6	 19.8	 30.6	 34.4	 24.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.6	 34.4	 27.7	 39.3	 16.6
CCI LOBO	 21.4	 29.6	 18.6	 18.1	 23.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ±0.0	 10.3	 16.6	 6.0	 11.1
CCI LOBO	 0.6	 5.3	 9.2	 1.4	 5.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.2	 3.4	 11.1	 30.3	 5.5
CCI LOBO	 17.6	 14.6	 20.5	 21.0	 15.0

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (1月速報)

調査期間：平成25年1月17日～23日

調査対象：全国の417商工会議所が3089業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況
業況DIは、改善、先行きも景気回復への期待感が高まる

1月の全産業合計の業況DIは、29.6と、前月から+4.5ポイントの改善。政府による緊急経済対策や円安株高傾向に伴う景気回復に向けた期待感の高まりから、製造業・非製造業を問わず企業心理の改善が見られ、個人消費でも一部で明るい兆しが出ている。しかし、足元では、円安に伴い燃料や原材料価格が上昇していることから、中小企業では、経営環境の好転に対する実感が乏しい。

先行きについては、先行き見通しDIが19.4（今月比+10.2ポイント）と大幅に改善する見込み。政府による公共工事をはじめとした大型補正予算の執行や、輸出関連企業の業績改善を背景とした景気回復への期待感が高まっている。一方で、円安の進行による燃料や原材料の価格上昇、電力料金の値上げなど、先行きに対する警戒感も依然として根強い。

産業別にみると、業況DI

は、全業種で改善した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事の増加が見込まれる。受注確保のため、技能上等の人員体制強化が急務」（一般工事業）、「大手を中心にメガソーラーへの参入が加速しており、受注も増えている」（一般工事業）、「円安により、輸入建築資材の価格上昇が見込まれるものの、価格転嫁が難しい」（リフォーム工事業）

【製造業】「タオルなどの原材料となる綿花を中国が大量に買い付けており、今後の仕入への影響が不安」（繊維製品製造業）、「燃料の高騰と電力料金の値上げによる採算悪化が懸念される」（陶磁器製造業）、「円安の進行により、為替差益が発生。業況も改善している」（自動車部品製造業）

【卸売業】「取扱商品の大半が輸入品であるため、急激な円安により悪影響が出ている」（繊維品卸売業）、「円安を受けて、取引先に自社が取り扱う輸入商品の値上げを

交渉している」（服飾品卸売業）、「海外向け商品の受注増が期待される」（家具・建具卸売業）

【小売業】「年始は日の並びが良く、長期の連休となったことで、来店客数・売上ともに前年を上回った」（百貨店）、「低価格帯の米の需要が拡大しており、仕入に支障が出ている」（米穀類販売店）、「地元市民の消費意欲は低迷しているものの、大河ドラマの効果により、観光客が増加。売上も伸びている」（商店街）

【サービス業】「円安の影響で燃料費が上昇しており、負担が大きい」（運送業）、「野菜の仕入価格が上昇。売上は好転しているものの、利益が出ない」（飲食店）、「利益率は低いものの、ビジネス客を中心に動きが開始しており、上向きつつある」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲23.8	▲19.6	▲21.9	▲27.3	▲34.3	▲16.6
9月	▲26.6	▲16.6	▲27.8	▲19.3	▲40.3	▲22.5
10月	▲32.6	▲21.5	▲33.8	▲29.1	▲45.9	▲27.6
11月	▲31.1	▲17.9	▲37.6	▲26.1	▲39.9	▲27.9
12月	▲34.1	▲22.6	▲35.9	▲38.9	▲41.9	▲30.9
1月	▲29.6	▲15.7	▲33.3	▲30.0	▲39.8	▲24.9
見通し	▲19.4	▲3.6	▲21.7	▲16.7	▲29.3	▲19.2

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI